

## 学習指導案

指導者 大船渡東高等学校 機械科 近藤 猛

1. 日時・場所 平成 27 年 8 月 31 日 (月) 3 校時 機械科 3 年教室
2. 学級 機械科 3 年 男子 32 名 計 32 名
3. 教材教科書名 機械工作 1 実教出版
4. 単元 塑性加工
5. 単元の目標

- ・ 塑性加工の特徴を捉え、他の工作法に比べて、経済性や生産性に優れてことを理解させる
- ・ 鋳造のように複雑な形状のものをつくることは困難であり、切削加工のように高精度の製品をつくるのが難しいことを理解させる。
- ・ 学校の実習で塑性加工の実習する機会が少ないため、身近にあるものや補助教材を使い生徒にイメージさせることに努める。

### □生徒観

どちらかというと座学よりは実習が得意な生徒が多い。進路意識は非常に高く、就職を目指している生徒の割合が多い。

### ②教材観

この曖昧事例を通し、就職した際に起こりうる作業時のトラブルを想定した学習であり、進路達成後の職業人として良い製品をつくるという心構えを養わせる。

### 6. 単元の指導計画

- (1). 塑性加工の分類 1 時間
- (2). 鍛造 6 時間
- (3). プレス加工 9 時間 (本時 6 時間目)
- (4). その他の塑性加工 4 時間

### 7. 本時の指導

- (1). 目標 曲げによる板材の変形の際の注意点について学ぶ。そのときの製品の欠陥について考えさせる。
- (2). 資料 プリント
- (3). 本時の指導計画

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点と 評価方法
導入 5分	前回までの復習	ノート教科書を確認する。	前回までの内容を発問する。	『関心・意欲・態度』 発表による
	本時の目標の確認	目標をプリントにラインを引いて確認する。	本時の目標について説明し、要所にラインを引くことを指示。	プリントの記入状況

展開 40分	塑性加工の注意点を考えさせる（5分程度）	学習プリントQ1の箇所を記入し、発表する。	教科書やノートを参考に学習プリントQ1を記入させ、その後指名し、発表させる。	『関心・意欲・態度』 プリントの記入状況、発表による
	塑性加工で製品をつくる時の欠陥について個人で考えさせる(10分程度)	学習プリントQ2の個人の予想を記入する。	学習プリントQ2の個人の予想を記入させる	プリントの記入状況による
	1班5～6人でグループワーク。(10分程度) 個人で考えた欠陥の有無についてグループで話し合い、発表する。	グループで討議し、学習プリントQ2のグループの予想を記入し、発表する。	グループで話し合い、グループの考えを学習プリントQ2のグループの予想に記入し、発表させる。	『思考・判断・表現』 プリント記入、発表による
終結 5分	塑性加工の注意点について確認する。	塑性加工の注意点について確認する。	塑性加工の注意点について確認させる。	